



# 支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

## もくじ

- P 1 支援員さんの声
- P 2 支援員さんの声  
支援員研修会の案内
- P 3 レッドリストの改訂に着手
- P 4 山口県自然観察指導員協会の活動

## 支援員さんの声

日々の観察の中で発見したことや活動での思いなどをお寄せいただきました。

### 「観察の真似事から」

平松 義範（山口市在住）

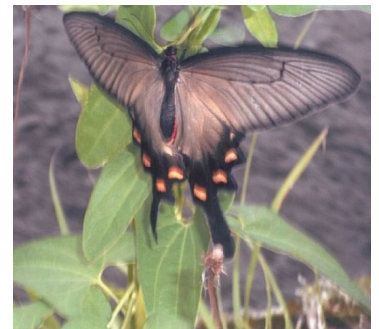
支援員登録していただいて約3年が経過しました。その間、研修会へは数回参加させていただき、その都度、その道のプロの方から、幅広いお話をお聞きし、感心しているばかりです。

支援員には、定年を迎え、小さい頃、夏休みの宿題で虫や蝶をおいかけていたことを懐かしく思い、身近な蝶に興味があわき、自然との関わりができればと、軽い気持ちで応募させていただきました。

これまでの研修で、竜王山周辺の野外観察会において、自然保護づくりに向けた地域の皆さんの地道な活動等に頭が下がる思いでした。その時の旅する蝶「アサギマダラ」のゆったりと飛び姿が今でも目に浮かんできます。

私の住んでいる団地周辺の狭い地域で蝶の観察の真似事をしていますが、昨年は見かけた蝶も今年は見かけないねと身近な環境も少しずつ変化しているのではと思うことがあります。今の時期、川土手にはウマノスズクサに群がるジャコウアゲハチョウの幼虫を見かけます。草刈りをするので、幼虫もサナギの場所を求めて大変で、中には近くの欄干で羽化の準備をしているものも見かけます。冬期には、欄干から落ちそうになったサナギを持ち帰り、春には無事に羽化することを願い観察しています。

これからも、一種でも多くの蝶が飛び姿が見られるよう、何かできることはないかと思っていますが、今一歩前に進まない日々です。お手伝いさせて頂けることがあれば、参加したいと思っています。



### 「楽しい研修会への参加」

大平 たけ子（山口市在住）

昨年の11月8日、角島は雨模様でした。毎年実施される希少野生動物種保護支援員研修会の第2回の会場は午前中は「つのしま自然館」でした。角島大橋が架けられてからは、海のすばらしさとおいしい海産物に魅せられて何かにつけ訪れています。今回は何に会えるのか楽しみでした。私は角島の海岸が大好きです。岩場も砂場も。この日は砂浜でユリヤガイというウミウシの仲間の殻？を探す講座があり、まさに眼を皿のようにして打ち寄せられた海草や細かな貝類、砂の中からやっとそれらしいものを1個見つけることができ大満足でした。自然館にあった標本を見ていたので意外とわかりやすかったのですが、私の前に来てくれたのはそれでおしまい。今は、ファスナー付の袋に大切にしまっています。いつか生きているユリヤガイを見たいと思います。



午後からは「牧崎風の公園」に移動し、ダルマガクの群生地の観察です。たまたま秋に訪れた時に沿道沿いに咲いていたのがダルマガクで、紫の色調とくっきり咲く姿が印象的で翌年の年賀状にした思い出のある植物です。その後も何回となく訪れているのに、季節が違ったのか咲いている花には会えませんでした。

今回は、例年に比べると少ないと言われていましたが、岬いっぱい咲くダルマガクは圧巻でした。しっかり風の中に咲いている時期に案内くださって本当にありがとうございました。

実は、この研修会に来ると、どなたか知り合いに会えるという隠れた楽しみもあります。何回か参加していますが、そのたびに違った人たちに、しかも本当に久しぶりに会えて、同じ思いを持っているということに安心感を覚えています。山口県には多くの異なる地域環境があります。今後もセンターの皆様にお手数をおかけしますが、様々な視点からの研修会を開催していただきたいと願っています。



### 「オオサンショウウオの研修会」

藤田 弘子（山口市在住）

私が初めてオオサンショウウオに会ったのは、植物観察会で立ち寄った瑞穂ハンザケ自然館でした。水槽越しに岩の間からかわいい眼をやっと見つけることができました。半年後、錦川のオオサンショウウオの生態や生息環境を学ぶ研修会が開催されました。国の特別天然記念物で「生きた化石」とも呼ばれるオオサンショウウオは、3千万年前から生息する日本固有種だそうです。昔はあちこちの川に生息していたようですが、乱獲や生息環境の変化が個体数を減少させており、錦川流域では高川学園の先生や生徒の地道な保護活動が続けられています。村田先生の話では、このままだと錦川のオオサンショウウオは近い将来、絶滅の危機にあるとのこと。地域の人々も保護活動に乗り出し、近年は大臣表彰を受けるほどに大きな地域づくりの繋がりになっています。

講義の後、実際の生息環境（宇佐川）まで車で移動し、急な突堤の上から川底で高川学園の先生や生徒がオオサンショウウオを調査する姿を見ていましたが、ただ怖くて高い梯子を下りることができなかつたことが今も心残りです。

次に行った場所は小学校の廃校舎に作られた保護施設で、沢山の水槽に保護されたオオサンショウウオが暮らし、ここで体力を得ると元の古巣に戻される仕組みだそうです。たまに息をするために水面に顔を出すスローな動きが面白く、見飽きませんでした。研修会では、遠距離を通いながら調査を続けている先生や生徒さん達の姿が大きく見え、また、流域に住む人々が美しい錦川を時代に引き継ごうとしている活動も知りました。

私も、この研修をきっかけに、生物多様性を後生にバトンタッチすることについて、自分で出来ることは何かを改めて考えさせられました。



### 〈今年度の支援員研修会の予定〉（詳細は開催案内を参照）

#### ○第1回 竜王山の自然観察

日時：平成27年10月12日(祝・月) 9:30～15:30

場所：きらら交流館、竜王山周辺（山陽小野田市焼野海岸）

内容：竜王山周辺の自然環境の学習、山野草やアサギマダラの観察など

#### ○第2回 照葉樹林を歩こう～城山の自然観察会

日時：平成27年11月15日(日) 10:00～15:00

場所：岩国市中央公民館、城山国有林（岩国市横山）

内容：照葉樹林での樹木観察など

◇ レッドデータブックやまぐち ◇

# 『レッドリスト』の改訂に着手します。

山口県自然保護課

県では、県内に生育・生息する野生生物の生態や分布などの状況を詳しく紹介し、県民の皆様と一体となってこれらの野生生物を保護していくための基礎資料として2002年3月に「レッドデータブックやまぐち」を作成し、2003年3月に「レッドデータブックやまぐち(貝類)」を作成しています。

しかしながら、初版の作成から10年以上が経過し、近年の地球温暖化の影響や開発など様々な自然環境の変化、また、県内に外来生物の侵入が確認されるなど野生生物をめぐる状況が大きく変動していることから、県では最新の生育・生息情報に更新するため、本年度から「レッドリスト」の改訂に着手することとしました。

改訂にあたっては、各分野における専門家の方々に構成される検討委員会を組織し、個々の種の絶滅の危険度を評価した結果について2018年3月を目標に公開することとしています。

なお、このたびの改訂では、初版と同一分野(ほ乳類、鳥類、両生類・は虫類、淡水産魚類、陸・淡水産貝類、甲殻類、昆虫類・クモ類、植物)の掲載情報を更新する予定です。

※「レッドリスト」とは

絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト

※「レッドデータブック」とは

絶滅のおそれのある野生生物の種について、それらの生息状況等を取りまとめたもの



オオウラギンヒョウモン

(山口県カテゴリー: 絶滅危惧 I A 類)



キビヒトリシズカ

(山口県カテゴリー: 絶滅危惧 I A 類)

※山口県希少野生動物植物種保護条例に基づき、指定希少野生動物植物種(平成17年3月指定)

## ■レッドデータブックやまぐち掲載種数(初版)

分類群	絶滅種 (EX)	絶滅危惧 IA類 (CR)	絶滅危惧 IB類 (EN)	絶滅危惧 I類 (CR+EN)	絶滅危惧 II類 (VU)	準絶滅危 惧種(NT)	情報不足 種(DD)	地域 個体群 (LP)	計
ほ乳類		2	1		3	12	4	1	23
鳥類	2	11	4		22	63			102
両生類・は虫類		1				9	2		12
淡水産魚類		2	10		4		4		20
陸・淡水産貝類	1	7	7		12	8	5		40
甲殻類		1				1	6		8
昆虫類・クモ類		19	14		48	62	74		217
植物		273	47	28	224	82			654
計	3	316	83	28	313	237	95	1	1,076

## ■レッドデータブックやまぐち(県庁ホームページ)

県では、「レッドデータブックやまぐち(初版)」を、より多くの県民の皆様にご覧いただき、利用していただくためにホームページを開設しています。

URL <http://eco.pref.yamaguchi.jp/rdb/index.html>



## 山口県自然観察指導員協議会の活動

山口県自然観察指導員協議会 事務局長 大田 和彦

本協議会は、来年度で創立30周年を迎えます。創立当時から寂地山のカタクリの保全活動と八代のナベツルのねぐら整備を行ってきました。カタクリについては、毎年4月29日に観察会を行っていますが、数年前から4月中旬と10月下旬に寂地山頂上付近の登山道整備も行っています。そのためかカタクリの群落も広がり、満開の春の妖精が以前よりも多く見られるようになり、登山客も満足しているようです。これからも保全活動を続けていき、頂上付近だけでなく、縦走路や頂上から下のあたりもカタクリで一杯にしたいと考えています。



次に、下関支部が中心に行っている活動に蓋井島のヒゼンマユミの保全活動があります。毎年春と秋にそれぞれ2～3回竹の伐採を行っています。船便の関係で1日2～3時間しか作業できませんが、この活動を始めて7年になり、竹の伐採は一通り終了しました。これからは、ヒゼンマユミの若木調査や分布調査なども行う予定です。

次に、岩国市錦町のセツブンソウの保全活動があります。平成21年に林節司さんがセツブンソウ自生地を発見され、翌22年には「古市節分草保存会」が設立されました。この保存会に加わり、毎年草刈りなどの作業や3月の一般公開日での見学者への案内や説明を行っています。



次に、下松市の切戸川で水生生物の観察会を13年前から行っています。参加者は小学生が主体の親子での参加となっており、下松市では非常に人気のある行事で、募集開始日には定員一杯となるほどです。指標生物となる水生生物による調査では、大体水質階級Ⅰの「きれいな水」となっていますが、Ⅱの「少しきたない水」の指標生物が見られるようになりましたので少し気になるところです。これからもこの観察会を継続し、きれいな川を維持していきたいと考えています。



次に、環境省と日本自然保護協会主催のモニタリングサイト1000里地調査を行っています。これは、里地里山の自然環境の変化を見つめ守り引き継いでいくために、今後100年にわたって市民の手で調査をし、保全の手立てにすることを目指しています。9の調査項目の内、植物相とアカガエルについて周南市中須北地区で去年から行っており、5年間調査する予定です。

皆さん、Eメールの御登録はされていますか？御登録をいただいた支援員の方には、自然とふれあう行事等について、随時、御案内をさせていただいております。御希望される方は、自然保護課に電話・メール等で御連絡ください。

また、これらの行事等を主催される方で、支援員の皆さんにお知らせをしたいという方は、自然保護課まで御相談ください。

発行元：(公財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター  
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720  
<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

